

## 計画概要

### 1 設計コンセプト

基本構想での整備方針「1. 災害対応拠点施設の強化」「2. 地域全体の防災力の向上」「3. 利便性の向上」「4. 経済性への配慮」「5. 環境への配慮」「6. 住民の安心・安全への配慮」を基本方針とし、更に「7. 地域性」「8. フレキシビリティ（柔軟性）」「9. 積極的なSDGsへの取組み」にも配慮した新庁舎を計画します。

#### 1) 災害対応拠点施設の強化

- ・非常時に迅速な災害対応を行えるように地震や豪雨などの防災・防火性能及び事業継続性(BCP)の向上を目指します。
- ・機能集約や情報化への対応によって、消防本部全体の活動能力の向上を目指します。
- ・特殊な執務環境に配慮した執務空間の整備や訓練機能の拡充によって、職員が能力を最大限発揮できる施設を目指します。

#### 2) 地域全体の防災力の向上

- ・地域住民、利用者の安心・安全のシンボルとなる庁舎とすることで認知度の向上を目指します。
- ・施設見学や講習会等に対応した施設とすることで住民の防災に対する理解、並びに地域の自主防災力の向上を目指します。

#### 3) 利便性の向上

- ・分かりやすい動線、サイン表示を用いた来庁者に優しい施設を目指します。
- ・ユニバーサルデザインに配慮した、誰もが利用しやすい施設を目指します。

#### 4) 経済性への配慮

- ・建設から運用までのインシヤルコスト、ランニングコストを意識し、長期的なコスト削減を目指します。
- ・長く使い続けることのできる施設とすることで建物の長寿命化を目指します。

#### 5) 環境への配慮

- ・365日継続して使用される消防署の特性を踏まえた上で環境に配慮した施設を目指します。
- ・環境負荷低減のための建築計画・設備計画とすることで持続可能な施設を目指します。

#### 6) 住民の安心・安全への配慮

- ・周辺環境に調和した景観に配慮した施設を目指します。
- ・周辺の居住環境に配慮し、施工時の騒音振動や訓練時の発生音の低減を目指します。

#### 7) 地域性

- ・豊かな自然と歴史ある地域性にふさわしい、長期の使用に耐えうる建築素材の選定を行います。

#### 8) フレキシビリティ（柔軟性）

- ・配線配管、機器の適正配置により、将来の変容性に配慮した施設を目指します。
- ・維持保守が容易となるメンテナンス用バルコニーを設定し、将来の維持管理費を抑えます。

#### 9) 積極的なSDGs（持続可能な開発目標）への取組み

- ・感染予防にも配慮した健康的、快適な室内空間を創設します。
- ・再生可能エネルギーを積極的に活用します。
- ・魅力的で働きがいのある、安全安心な職場環境を目指します。
- ・誰でも利用が容易な公共スペースを提供します。

### 2 敷地・建築概要

- 地名地番 : 京都府木津川市城山台九丁目1番の一部  
 敷地面積 : 45,970.53㎡の一部  
 建物構造 : 庁舎棟 鉄筋コンクリート 一部鉄骨造 3階建て  
           車庫棟 鉄骨造 (屋上、訓練ステージ)  
           訓練棟 鉄筋コンクリート造 4階建て
- 建物規模 : 庁舎棟 約4,600㎡  
           車庫棟 約250㎡  
           訓練棟 約320㎡



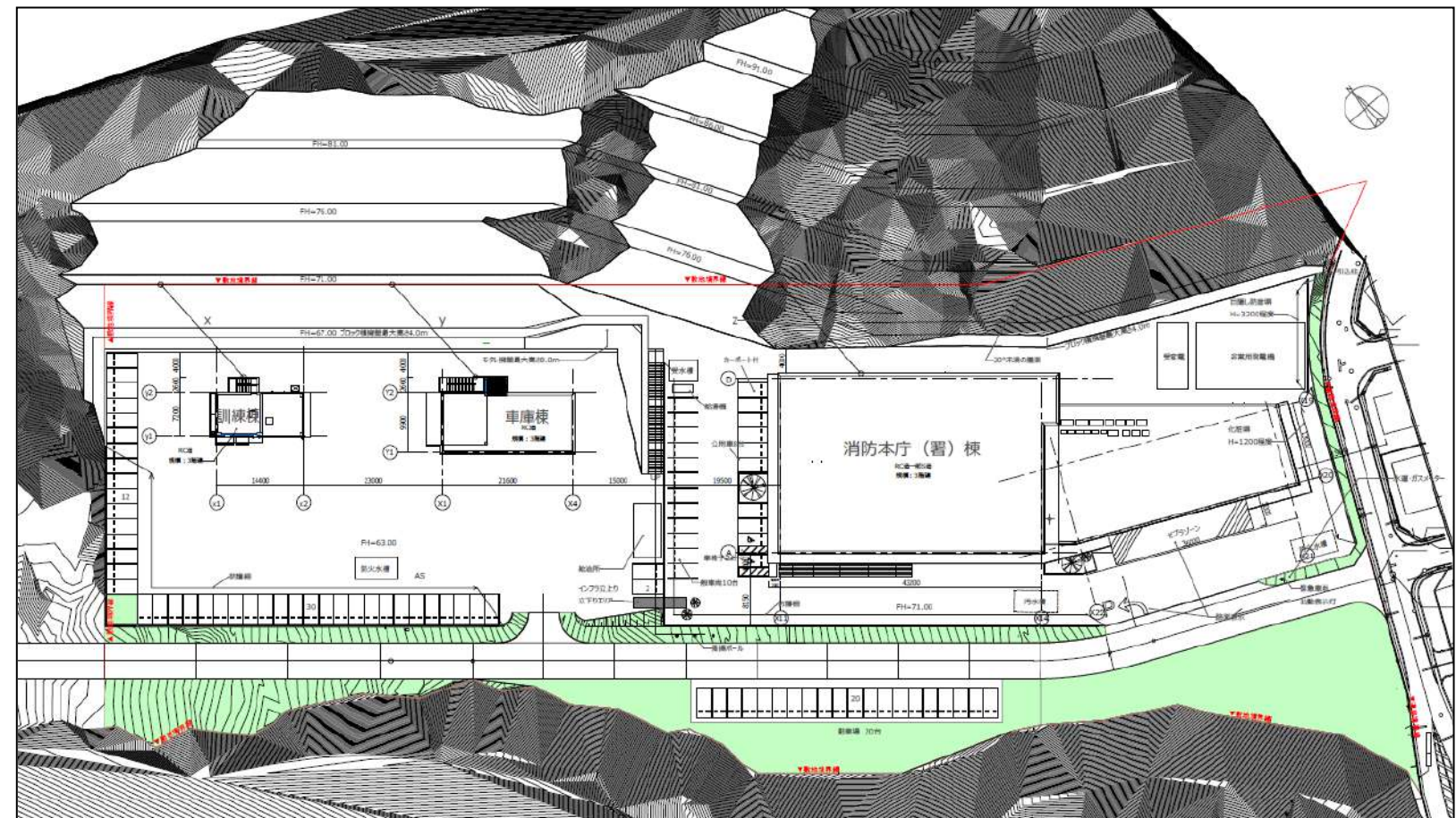
### 3 配置計画

緊急時の出動や有事の災害対策活動に備え、集約配置が望まれる消防本庁（署）棟は、上段の平場に配置し、車庫棟及び訓練棟は中段に配置します。

建物周囲のメンテナンス空地の確保、及び法的高さ制限に準拠するため、北側に離隔をとって施設配置を行うとともに、必要規模を確保しつつ、車両転回スペース・訓練スペース・駐車場（来庁者・職員）を確保します。

東側住宅への圧迫感低減に配慮し、消防本庁（署）棟を道路から極力セットバックします。

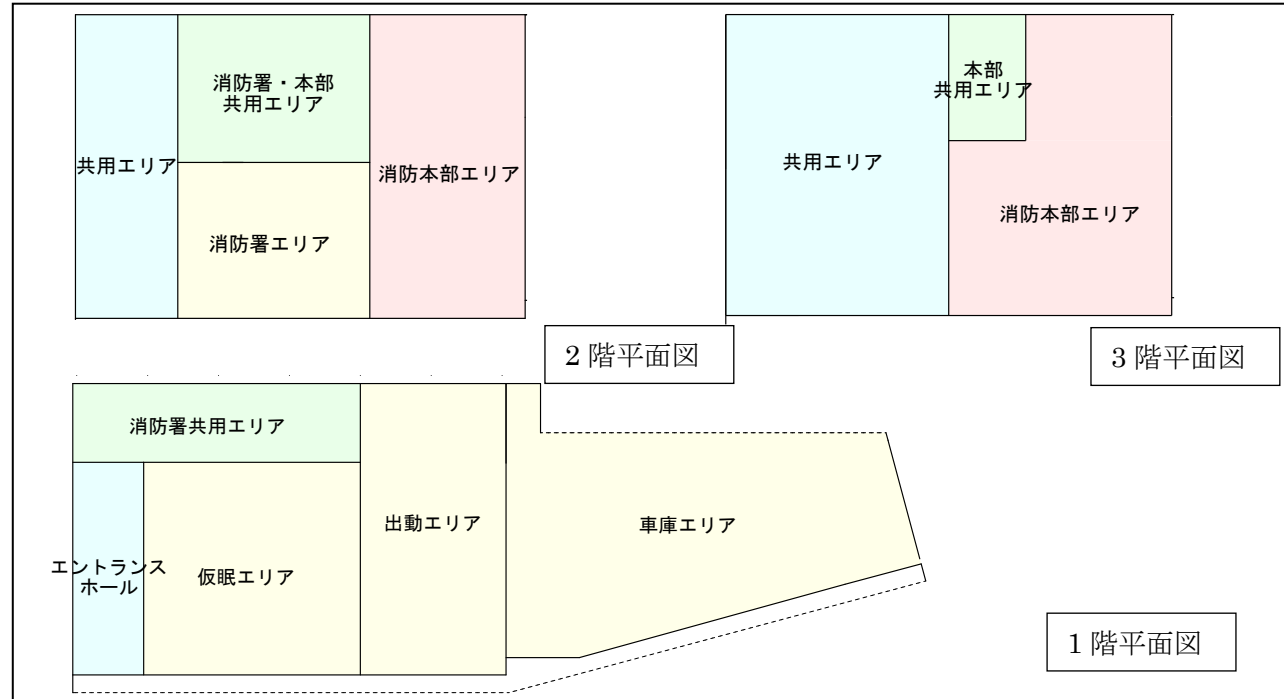
また、住宅に面する部分については倉庫を配置し出来る限りの防音対策に努めます。更に消防本庁（署）棟の住宅側は、高さを抑え住宅側への圧迫感軽減に配慮します。



#### 4 平面計画

緊急出動時の迅速な出動を実現するため、最も効率の良い動線となるよう、出動エリアの近傍に仮眠エリアを配置し、消防署エリアは出動エリア直上の2階へ配置します。

エントランスホールから、施設の構造が一望できる吹抜けに面した階段、エレベーターを配置し、一般来庁者への視認性と避難安全性に配慮します。



#### 5 外観計画

地域の歴史性と、日射負荷軽減の観点から水平庇の日本的なデザインを取り入れます。長期に渡り建物の美観を保つ施設を計画するとともに、東側の住宅街への圧迫感軽減に努めます。

庇、メンテナンス用バルコニーを活用し、景観配慮及び環境配慮に努めた外観を形成します。



※詳細検討により、今後変更の可能性があります。

#### 6 ボーリング先行調査結果

ボーリング先行調査は計画地点の代表的な中間箇所の小段2段目（下図「ボーリング先行調査位置図」のB-1、B-2、B-3の3箇所）で、土砂が厚いと予想される谷状の箇所を実施しました。

調査の結果は、表層には盛土（B）並びに崖錐堆積物（dt）が分布し、基礎地盤には周辺の宅地地盤にもなっている大阪層群（Os）が分布します。

このように斜面には崖錐堆積物が分布していますので、この崖錐堆積物対策を行い、施工を進めます。

今後、新庁舎や訓練棟などの配置計画がまとまり次第、改めてボーリング調査を実施し、必要に応じて対策を行います。

